

大阪府立たまがわ高等支援学校 平成 31 年度 第 1 回 学校運営協議会の概要

- [1] 日時 令和元年7月8日(月) 午後1時30分～3時00分
- [2] 場所 大阪府立たまがわ高等支援学校 会議室
- [3] 出席 協議会委員6名 事務局員10名
- [4] 内容
 - 協議会委員自己紹介及び事務局員紹介
 - 1 開会の挨拶
 - 2 事務局から説明
 - (1) 学校運営協議会実施要項
 - (2) 平成30年度学校経営計画及び学校評価について(報告)
 - (3) 平成31年度学校経営計画及び学校評価について
進路指導の状況について(報告)
生徒指導の状況について(報告)
 - (4) その他
 - 3 協議
 - 4 閉会の挨拶
 - 5 諸連絡

議事録(抄録)

《議事録中、●は協議会委員です》

○協議会委員自己紹介及び事務局員紹介(委員等の詳細は本ホームページ内別掲)

1 開会の挨拶(校長)

本日はご多用の中お集まりいただきありがとうございます。学校運営協議会は、校長の学校運営計画について協議、承認をする役割をお願いしている。また、学校評価についての妥当性、承認もお願いします。さらに、教職員の人事配置、職種、専門性を含めてご意見をいただきたい。任期は2年。

司会：今年度も協議会会長は、●様をお願いいたします。 → 一同了承。

2 事務局から説明

(1) 学校運営協議会実施要項
要項の配付のみ。

(2) 平成30年度 学校経営計画及び学校評価について(報告)(校長)

昨年度、第3回の学校運営協議会で承認をいただいた内容。めざす学校像は創立以来の教育目標で柱となるもの。中期的目標については、関係機関との連携、生徒が社会で就労を実現するための支援、また、時代の変化に応じた校内組織をあげている。学校教育自己

診断の結果と分析についてもご確認ください。

裏面は、それぞれの項目について評価指標に対しての自己評価を、可能な範囲で数値化している。

学校生徒アンケートで、「学校に行くのが楽しい」肯定的数値が昨年を下回っている。数値のみで判断しているわけではないが、生徒が学校に行くことがつらい、楽しくないと思っているのであれば、重く受け止める必要がある。これからいろいろなアプローチをしていく必要があると感じている。また、ワークライフバランスについては、教育職がブラックだという定評が若者世代に定着しているようで、それでは貴重な人材を失うことになる。学校閉庁日など設けているが、教職が魅力のないものにならないよう、それぞれの生活を守っていききたい。保護者に対して、例えば夜6時以降のご相談については翌日に、と呼びかけるなども考えていきたい。

(3) 平成31年度 学校経営計画及び学校評価（校長）

めざす学校像は昨年度と同じである。

中期的目標についての変更点について主に説明したい。

共生推進教室については、来年度からなにわ高等支援学校にも2教室設置される予定。高校の教育活動がベースになるが、職業教育、進路の取り組みなどで本校の教員と連携する。

教育活動の充実について。新学習指導要領の移行期をふまえ、積極的に取り入れていくべきだと考えている。個別性については、就労を目標としている学校なので集団で教育活動を行うことがベースだが、集団の中でも個別性を重視した内容に取り組んでいく。また、1年生の多様性の広がりを見ると個別性のニーズが高いとも考える。キャリア学習にはキャリア発達支援の観点を重視して取り組む。

教員の働き方について。ワークシェアリングの観点も取り入れたい。

取り組み内容と評価指標について。

外部への発信と関係機関との連携では、学校案内リーフレットの更新を考えている。Tマガジンも含めて地域支援部を中心に改訂していく予定。また、今年度初めての取り組みとして、中学校等3年生を対象にした体験授業を実施する。本校の教育活動をよく知って入学してもらうためと、本人選択が軽んじられないことがないように、という目的で実施する。現在応募が100人ぐらいになっている。想定以上の参加者となっており、うまくできるかどうかかわからないが、やってみることが大事であり、歓迎の気持ちを持って迎えたい。

また、交流及び共同学習は今年が最終年である。スポーツを通じた交流をおこなってきた。オリンピックに来てもらって直接指導してもらい、他校との交流、など。今年度はより濃密に、検証も含めて実施する予定。参加している生徒の表情はとてもよいと感じる。

たまがわランドについて。生徒の半分以上が中河内から通学している。卒業後は地域にかえていくので、この地域の人に本校のことを知ってもらう大切な機会である。先週には保育園児に来てもらって野菜の収穫体験、食堂の運営、などをおこなった。

進路指導について。今年も夏休みに教員全員で職場開拓をおこなう。キャリア発達支援については、昨年度検討チームを発足し、今年度はチームの人数を増やして総がかりでや

っていく。また、教員からの提案で、本校にはなかった生徒手帳を作る計画がある。実現できるかどうか今はまだ不透明だけれど、キャリア発達支援の観点を入れて作っていく。単価が高いと負担が増えるので相談しながらすすめている。

専門家との連携では、臨床心理士相談に加え、今年度から高等支援学校に配置された、スクールソーシャルワーカーにも5月から週1回来てもらっている。後方支援ではなく、横並びでやってもらうことを希望していたが、とても積極的に動いてくれている。指標として不登校生徒の減少などの数値を出しているが、すぐに成果が出るかどうかよりも、支援力が高まることを期待している。

生徒会活動では、昨年度からあいさつ運動に生徒会役員の生徒を中心に取り組んでいる。学校の前の歩道に出て挨拶をしている。近隣の方にも少しずつ知ってもらい、広げていきたい。

イノベーション委員会について。校長指名で「キャリア発達支援チーム」として3年間のキャリア発達支援計画を立案する予定。時代はどんどん変わっていくが学校には情報が入りにくく、前例をベースにしていくことが多い。そのことが悪いとは思わないが、何か新しいことについてのアンテナを立ててやっていくことが教育においても大事だと考える。

○進路指導の状況について（報告）（事務局員）

11 期生について

66名卒業、就職56名、職業能力開発施設2名、障がい者福祉は、就労移行支援事業所2名、就労継続支援B型事業所1名、その他（未定）5名。未定の5名については心配をしている。

就職56名の職種は、製造業、食品製造（コンビニやスーパーの食品製造が増えている）、事務補助、特例子会社、販売・品出し（大型店舗の小売店）が増えている。生徒にとっても小売店は身近な職種で、希望が多い。一方、介護補助が減っている。コミュニケーションににがて意識のある生徒が増えているので、介護の職場で働くのはハードルが高い。

正社員の割合が3割ぐらい、と増えた。ありがたいが、求められる力も高くなるので働き続けることがしんどくなる。今後働き方については企業と相談していく。

現在離職は1名。ジョブコーチに入ってもらおう準備をしていたが、5月の連休明けには辞めてしまった。精神的に、粘る、我慢する、が、にがてな生徒だった。また、職場への不適應による改善が必要なケースも1件ある。

ほぼ全員の卒業生への巡回訪問（就業・生活支援センターとの同行訪問）が終わっている。

3年生の状況

6月職場実習61名参加。生徒と企業とのマッチングを大事にしている。学校としてのマッチング力は今後も向上させていきたい。

2年生までは実習中の課題が多かったが、3年生になって自覚ができたのか、全体としてスムーズに実習を終えることができた。

2年生の状況

60名が6月職場実習に参加。初めての2週間の実習だった。にがてな職種のところに行く場合もあるので問題が多くなる。経験を増やしてほしい。

1年生の状況

6月に進路ガイダンスを実施した。学校の近くの企業2社へ見学に行った。また、外部講師の講義により、働くこと、職場実習とは、という進路学習をおこなった。今年の1年生は素直で、指示されたことを一生懸命にしようとするが、バランス良く、というのは難しい。その年ごとの生徒の実態に合わせて指導していきたい。

○生徒指導の状況について（報告）（事務局員）

生徒の様子について。

1年生は入学後3か月経ち、多様性が広がっている。例年に比べて登校状況は良い。生徒指導事案も少ない。

先日、近隣からの電話連絡とホームページからの連絡があった。内容は、通学で利用しているバスに乗り込む際に順番を守らずお年寄りをつきとばし、さらに態度も悪いとのことであった。歩道を歩いているときに道に広がっており、注意を受けた際に暴言を吐く、というもの。生徒が主体的に社会のマナーを考えるため、全校集会を開いて指導をおこなった。マナーは、相手を大切に思う気持ちが大事である。苦情があったことを真摯に受け止め、改善していかなければいけないと考えている。また、生徒たちは忘れやすい面もあり、毎朝8時に校門に立ち、挨拶などの声かけをしていく。

ご迷惑をおかけしたことに関して、生徒会役員の生徒を交えて話をしたところ、生徒から「挨拶に立ちたい」という意見が出たので、今朝から始めている。自然な形で、生徒に無理のないよう続けていきたい。

SSW 相談事業について。

生徒への働きかけ、教育支援、生活支援という観点で相談する。保護者が困り感を抱えている、生徒も保護者との関係に困っている、不登校、メンタルヘルス、愛着課題、非行傾向、など、さまざまな問題に対して教員からのケース相談を実施する。年間36回、1回あたり6時間の配置。

早速、不登校が半年続いていた生徒に対して家庭訪問と保護者との懇談を実施し、その後学年の教員が家庭訪問をして登校できるようになった。また、別のケースでは関係機関へ保護者と同行してパイプ作りをおこない、こちらは経過観察中である。本人へのアプローチだけでなく、関係機関との連携についてうまく学校と役割分担をすることで、多様な社会的資源があることがわかった。問題解決に活かしたい。

(4) その他

特になし

3 協議

司会：議事進行を会長にお願いいたします。

司会：みなさまからご意見ご感想をいただきたい。

●委員：生徒指導上の問題について、解決しないと就職につながっていかないのでは。

司会：挨拶はとても大事。実際に起こったことよりも、起こらないようにすることができるよう。

●委員：たまがわは開校から14年目になり、他の高等支援も増えている中で、多様な生徒が来ている。10年前とは層が違い、ベースの力をどうつけていくか、が大事。個別性の話もあったが、自分の持っている力をどう発信できるようになるかが大切である。おそらく今までは他の人に決めてもらったことで人生を歩んできているが、自分のもやもやした考えをどんなふうに他の人に伝えるか、その力をつけたい。不登校で集団に入れない人に、どうしたいか、と聞いても自分の考えが表出できない。そういう人たちをどうやって働く場まで持っていくのか悩んでいる。ご家庭、施設とどんなふうに連携を取るのか、SSWとの連携を勉強させていただきたい。

進路指導について。今、求人はどんどん増えている。特例子会社など、東京だけでは人が足りず、大阪にも人材確保にきている。就労先はあるが、長く働けるかどうか。本施設でも、昨年はマッチング重視で1割が就職できない状態で卒業を迎えた。決められた期間で育て上げることができないが、中途半端に就職させることは良くないと考える。無理に就職すると本人にとってマイナスの経験になるので、本人に合うところがみつかるまで支援する。

司会：マッチングのコツ、大事にしていることはどんなことですか。

事務局員：今までは「職種」で話をするとそのイメージだけで考えることが多かったのですが、生徒の特性に合っているかどうか、職場のタイプ別にどういうところまでできるのかを本人、保護者に聞いている。同じ職種でも職場の雰囲気も大切にしてマッチングしている。

●委員：マッチングというキーワードは大切。就職ではないが、中学校の生徒とのマッチングはいい取組だと思う。今年から実施する体験授業に100名以上の申込みがあるというのは、ご家族も含めて意欲が強まっているのでは。

一人ひとりの個性と会社、職場の個性がいかにかうまく組み合わせられるか。ノウハウがたまっていっていることもあるが、1年生の秋からの実習で、経験によって意欲が高まることとステップが上がることも有効。

弊社内でも、同じことを覚えてもらおうとしても一人ひとりに合わせた指導の仕方を工夫し、少しずつノウハウがたまってきている。それによって離職率が下がっている。

●委員：学校の PR について。9月にラグビーのワールドカップが花園である。ラグビー場の一角で学校の生徒がパンフレットを渡す、など、行政の PR の手助けをするのはどうか。これからは IT の発展がさらに広がると思う。例えば生徒の情報を AI で判断し、保護者に対して指導方法を伝える、などできれば。

●委員：ワールドカップについては何かしら参加できれば。試合が終わってからの清掃活動でもいいので、他の人と一緒に活動ができればいい。

●委員：東大阪市でラグビーのマークが入ったごみ袋を提供していると思う。その他にもいろいろな道具を貸出しているところがあるのでは。東大阪市との連携を考えてみてはどうか。

●委員：「世界一の清掃」という情報を聞いたことがあるが、清掃は人間の生活で大切な事である。学校の近くで4年に1度の大会があるのは稀な経験なので、「世界と繋がれる」と生徒が実感できることで、清掃のイメージを変えることができるのでは。

●委員：地域からの苦情について。今の時代、なかなか言ってくれる人もいないので、よかったのではないかと思う。

●委員：学校に直接連絡してもらってよかった。SNS などにあげられるともっと大変になる。直接言ってもらえるのは学校の取り組みの成果である。

司会：今日の話聞いていて、個別性への思いが強くなった。学力向上のためにも大切だが、自分がどんなことができているか、どんなことに向いているかがわかって前へ進んでいくので、子ども自身が自分のことをわかって進むこと、個別性の認識が大切。生徒指導でも、マナーの話で出ていたが、相手を大事に思う気持ちは、自分が誰かにきちんと大事にされた経験を通してはじめてわかること。相手に挨拶をされなかったら、「そこにいないもの」としてとられる。お互いを認めることが大切である。

4 閉会の挨拶（校長）

たくさんのご示唆をいただきありがたい。ワールドカップを子どもの活動につなげるなどのことをお聞きし、私自身も発想が乏しいと感じた。生徒からこのような話が出ると面白いと思う。個別性については試行錯誤の状況もあり、十分な確信があってやっているのではない。12月には第2回の協議会があるので、進捗状況をお伝えしたい。

5 諸連絡（司会）

次回は12月に実施の予定。日程調整をします。